



ロータリー：  
変化をもたらす

2017~2018年度国際ロータリーテーマ

# ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

Rotary



# CHINO



茅野ロータリークラブ活動指針

「ロータリーの奉仕の進化と深化を楽しもう」

茅野ロータリークラブ

創立1981. 1. 26

2017 - 2018 会長 高見 恭司 幹事 勅使川原 一幸

Vol.27 1733 2018.2.28

高見会長挨拶

皆さんこんにちは

さて、ご存知のとおり、ピョアンオリンピックで小平奈緒選手が、日本スピードスケート界に新たな歴史を刻まれました。小平奈緒選手がライバル韓国のイ・サンファ選手を破り、しかもオリンピックレコードで堂々と金メダルを取得しました。さらにこの二人には、日韓の国民なら皆が、想像できない、深い絆がありました。その感動エピソードが紹介されていたので、ご披露したいと思います。



日本選手団の主将で、国内外で同種目 24 連勝中の小平奈緒選手 (31 歳相澤病院) が 36 秒 94 の五輪新記録をマークし、スピードスケート女子では初となる金メダルを獲得しました。ライバルで五輪 3 連覇を狙う地元韓国の女王イ・サンファ選手を破っての快挙でした。

大会は、小平選手が五輪新記録を、打ち出した直後、歓声に沸く日本人ファンらに対し口元に指をあて、静かにするように求めたジェスチャーも話題になりました。小平選手の直後に、サンファ選手の組のスタートを控えていたことから、スタートに影響がでないようにする気配りが、小平選手の人間性も、金メダルと称えました。

レース直後、親友の 2 人はレース後、自然に歩みより、勝っても、負けても、変なオーバーアクションもなく、お互いに笑顔で健闘を称えました。誰がみても美しい光景であり、レース後 3 連覇を逃がしたサンファ選手は涙、小平選手はそのサンファ選手のもとに向かい、抱きしめて言葉をかけます。かけた言葉は「地元開催の韓国五輪で、サンファの受ける重圧はすごいものだった。すごく、たくさんのお重圧の中で、よくやったね、私は、まだあなたのこと、まだリスベクトしているよ」と尊敬の言葉をかけ、サンファ選手の涙顔から、笑顔に変わり、2 人で、ウィングランは、「2 人の友情にアイスリンクもとける」ほどでした。

世界の舞台で長く争ってきた 2 人。500 メートルでは圧倒的な力を誇ってきたサンファ選手。ただそのアスリートとしての姿勢は、小平選手にとっても憧れの選手でした。2 人並んでの記者会見、小平選手が「サンファはいつも親切なんです。3 年前にソウルの世界選手権で、私が初優勝した時、すぐにオランダに戻らなくてはいけなくて、大会の会場から空港までのタクシーを呼んでくれて、また、お金も出してくれた。レースの結果は悔しいはずなのに、真摯に「奈緒のために」と思う気持ちで、それがすごくうれしかった。」と思いを語れば、サンファ選手もまた小平選手の姿勢を尊敬の念を示しました。「奈緒さんとレースをして、気分が悪い気持ちになったことは 1 度もない」また「タクシー代は確かに払った。レースで、彼女さんを嫌いな気持ちはまったくなかった。いい友達だから、彼女のライバルであることに、誇りを持っています。」と笑顔で答えました。

さらに、2 年前、カザフスタン共和国のアスタナでバスを待っている時、奈緒さんと写真を撮りました。奈緒さんはその時、「次の五輪では、サンファが、勝って私が 2 位ね」と言いました。私も「それなら奈緒が勝って私が 2 位でいい」と二人でむきになって、言い合いました。今となっては、とても懐かしい思い出を披露しました。

最後に、同世代で、ずっと世界のトップで、競い合ってきた 2 人、お互いを認め合い、2 人絆は、ずっと深かったと思います。リンクを離れ、親友に戻った 2 人が、お互いの手を握り合いながら、ずっと笑い合いながら記者会見をしていたのが、印象的でした。

以上で会長挨拶と致します。ご清聴ありがとうございました。

## ※別紙幹事報告書

### 坂田和男会員の退会あいさつ



今日私をもって長野日報社を退任いたしました。長年お世話になりましたがいったん退会しリセットをして、退会したいと思いますのでよろしく申し上げます。どうもありがとうございました。またこのロータリーに帰ってこれるような人間になって戻ってきたいと思えます。

## ニコニコBOX

人数  
25人  
金額  
46,000円

- ◎高見恭司会長 卓話の皆さんよろしく申し上げます。
- ◎竹村一男会員 結婚記念日のお花ありがとうございました。平昌オリンピックの応援に行ってきました。
- ◎朝倉秀尚会員 お花をいただきました。
- ◎藤本 稔会員 長男が劇症肝炎で1ヶ月入院しましたが無事退院できました。

## 卓話

小尾幸太郎会員



会長のときに鍛冶屋の話をしたので今日は「金物屋」の話します。うちはもともと鍛冶屋で創業し、ここで98年目であと2年頑張れば100年ということになるので当面そこを目標に頑張ってみようと思ってます。

鍛冶屋の製品を金物屋に卸していたのが始まりで、昭和44年に今の「定正」の屋号で自ら金物屋を始めました。当時から金物屋は新規参入が難しい業種といわれていました。なぜかという、在庫を持たないといけないので、ある程度のお金のある人でないとなかなか大変だと。今は、大手資本によるホームセンターが主流となってきました。昭和56年に帰ってきて定正に入社して1、2年後に宮川にニューライフカタクラができてホームセンターが金物屋を売るということになりました。当時は茅野市はまだまだ景気がよくいらんならと現場があつてまあまあやってこれたというのが実情です。

戻ってきた頃は蓼科に東急リゾートホテルが仕上げの段階で、その後東急リゾートマンションの第1期工事が始まりました。景気も良かったのか、全部で15期の工事があり、かなりの棟数を建てていました。金物屋として配達をしていたのですが、4期目くらいにベランダにスチールの「手すり」が着く工程を定正でやって欲しいといわれて、手すり工事なんかやったことがないけどなんとかやりました。まず、図面が描けない。とりあえず友達に描いてもらって現場に持って行ってまあいいよというくらいのものでした。かなり大きな工事があって、そのときは友達に断られて、ある人に頼みました。そのときは売上も大きかったが、図面代も結構かかって、なんとかできねえかななんて話をしたら東京ダイカストの加藤さんのところに不要なドラフターがあるというので、まずそれを手に入れて図面を自分で描くようにしました。簡単な図面だったんで描けたんですが、そんなに東急リゾートマンションの設備工事をやりました。それと、「面格子」というのがあって窓に格子をつけた飾りをつける工事でした。赤字にはならないのでやってみようということでやってみました。面格子が結構良い値段で買ってもらったのでなんとかやりました。その後、ゼネコンが東急建設ではなくて北野建設とかいらんならと入ってきて手すりがアルミになったりしたのでうちの工事が出来なくなり納品だけになりました。

当時は景気が良かったので、蓼科に保養所を作るところが多くて毎日2回蓼科へ行って白樺に行き帰ってくる、というのを午前中一回やって、午後また同じように回ってくるというように、当時は商品もあつたし配達する現場もあつた。そんななかで赤字でなければ請けるというふうなことでやってました。

当時一番記憶に残る工事は、諏訪に「全音」という会社があつたところにマンションを建ててますがその工事で、始まったときにトビさんが定正さんや菓子折もって挨拶に来いよということで、菓子折もって挨拶に行きました。それからどどん発注が来るんで、すごいなと一日何回もいくことになった。それに内装の細かいところや換気口をつけたりすることもやらせてもらったり、結構大変だった、夜行って換気口をつけたり、全然間に合わないのに請けてきて鍛冶屋さんをお願いしてやったり、まあまあかなりの金額になった。丁度その工事が竣工したころパブルが崩壊した。ほとんど100%売れてたんだが引渡しには何件か解約になったという話を聞きました。私の先輩がそこに部屋を持っていて、一回来るかというのでスゲー苦労して作ったので是非行ってみたいということのでこの大浴場に入ってよかったななんて「やった」なんて気がして良かったと思えました。

今は大分工事が少なくなってますが、なんとかやっています。昔はどこに売てるか分からないものは金物屋に行け、ということで扱いが多かったんですが、今のお客さんは、ホームセンターに行けばアマゾンに、ということでほとんど金物屋に来なくなりました。皆さん、どんなことでもいいんでいっていただければ「誠意を持って」対応します。よろしく申し上げます。

## 出席報告

会員数 56名  
出席 43名  
出席率 77%

卓話

藤澤武則会員



地震と住宅について話をしてみます。昨年末に「地震調査研究推進本部」という硬い名前前のところからの調査報告で、北海道沖千島海溝沿いでは、東日本大震災クラス地震がこの30年の間に、7%から40%の確率で発生すると推測しています。太平洋の南海トラフでは巨大地震マグニチュード8から9の巨大地震が30年以内に70%程度起こるであろうという報告がありました。こういう地震が起きて木造2階建ての住宅が耐えるかどうか、という話をします。

昭和56年に建築基準法が改正され「新耐震基準」が制定されました。これはその3年前に宮城県沖の地震をうけて改正されたわけですが、サッシのガラスが割れて落ちたり、外壁のタイルが剥がれて落ちたりしても崩壊をしないという考え方で法律が施行されました。基本的には筋交いをバランス良く入れるということですが、これが10何年たって、平成7年に阪神・淡路大震災が起こりました。住宅が20万戸倒壊して、消失したのは7千戸という報告がありました。これは30年の確率から行くと0.02%から約8%の確率で地震が起きるといって報告されましたが、その朝大地は大きく揺れてテレビで見えても、高速道路の橋脚が軒並み倒壊したなんていうことが起きました。そのときも国交省では昭和56年の新耐震基準は概ね妥当であったという報告がありまして、なおかつこれからは余裕をもった設計をしてほしいという報告がありました。それでは20万戸壊れたのは昭和56年よりまへの建築だったのかという細かい報告はありませんでした。そのあと平成12年に大臣告知というのがあり、これは結構な改正でした。基本的には住宅については地盤調査しなさい、あるいは金物を大事なところには使いなさい、というように56年の新耐震に補強されてきました。それから平成23年に、東日本大震災では地震による倒壊というより津波によるもので、大きな被害が起きましたが、地震に対しての報告というものは特に細かくは発表されませんでした。

住宅について一番大事なことは、一昨年2022年4月14日に熊本の大地震がありまして、これも阪神・淡路と同じようにあまり確率が高くなかったが、熊本城の石垣が崩れたり、山々でがけ崩れが起きたり、橋が落ちたり大災害でした。このときに熊本の街中では、新しい住宅が結構壊れました。56年の新耐震ができて、なおかつ12年の告知を受けて作られたものが壊れて話題になった。ここにはひとつ共通した部分がありまして、1階にLDKをもってきて広間を持ってきてしまっているがために態様的にもたないという結果がでてきて、2階の柱の下に1階の柱がある(直交)割合(直下率)が不足しているのではないか、という報告がありました。その後、それに対して国交省からは報告はありませんでした。結局、LDKを2階にもって行って1階に各個室を配するのが安全ではないかという話になってきたわけです。

そんなわけで冒頭お話したような巨大地震がくれば木造2階建てではもたないのではないかと危惧しています。最近平屋建てが若干多くなったような気がします。都会の建物に2階にLDKを持ってきている設計が建築雑誌で少し多くなったかなという状況です。木造の住宅にはもっと厳しい要求がでてくるのかなと思って心配しているところでございます。

ほんとは10月に広島が3連敗した話をしたかったのですがこの辺で終わりにします。

卓話

北澤平吉会員



ピョンチャン・オリンピックが終わりました。感じたことを少し。インタビューで、「勇気をもらった」とか「元気をもらった」とか「感動した」とかの声がありましたが、わたしとすると今日のネタをもらったということで非常にありがたかった。

「夢が叶った」とか「夢を持ち続けた」とか「頑張っってやってきた」みたいなことをアスリートは言っていました。幸太郎さんの定正さんではないが長く続けないと成果は出ないということなんですね。自分の場合は、夢も無ければ希望も無いという状況で仕事を始めました。

勤めでは2、3年で配置換えのような状況が続く、この道何十年というような話が出来なくて残念です。オリンピックのように長く続けないと金メダルはとれないな、と。

たまたまこの仕事を始めたのは、50過ぎには雇用が無いということでもなんか無いかと思っていたら、下諏訪に高校の同級生がこの仕事をしていて結構稼いでいることを知りまして、こいつがやっているなら俺でも出来るんじゃないかと思って試験を受けてみたんですが意外と難しく時間がかかってしまいました。それでもなんとか取れて田中淳喜さんの所に修行のお願いをしたのですが断られて自分でやりなさいと教示されました。そのかわり全面的にサポートして頂いて今日こうして仕事が出来ているのは全て田中先生のおかげです。同業者組合ではなんとなく受け入れが悪いのが通例ですが、諏訪支部は皆さん優しくおかげでここ10年くらいやっています。

そうはいってもオリンピックを観て、やっぱり夢がないとダメかななんて思っているんですが、いまさら夢や希望がないんで、鎌田先生も人生には生きがいが必要だといっていましたので、これからなにか生きがいを探して生きてみようかななんて思っているうちにズルズルで終わりにになってしまうと思いますがここでのお知り合いになった皆さんのご指導ご鞭撻を頂いてなんとか70歳か80歳くらいまで生きてみたいと思いますのでよろしくお願いします。

## 長期交換留学生茜ちゃんへ3月分お小遣い贈呈



## ホストファミリー一矢崎勇人会員へ補助金贈呈

